

19. 「おおいた冠地どり」における廃棄率等低減に向けた 現地活動（第一報）

農林水産研究指導センター畜産研究部

○野仲美樹・阿南加治男・志村英明

【背景】

食鳥処理場における廃棄率等の改善は生産者所得向上に寄与するが、様々な要因が関与することから、実際の現場において改善を実施するのが難しいのが現状である。

今回、「おおいた冠地どり」処理場データを用い、廃棄率の高いA農場改善の取り組みを行ったので報告する。

【活動内容】

処理成績を分析し、分析結果をもとに関係者（牧場主、管理獣医師、食鳥処理場、販売業者、家保等）で改善方法を検討し、下記の事項についてA農場の分析、現地調査や改善指導を行った。

1 データ分析について

H31年からR3年の処理成績を他農場と比較すると、A農場は育成率が低く、廃棄率が高い。廃棄率の内訳として青脚率、削瘦率が主な要因であった。これらの改善のため飼育環境や飼養管理、捕鳥状況等について現地調査を行った。

2 現地調査及び指導について

各鶏舎の構造や飼養管理方法に大きな差は見られなかったが、各鶏舎とも鶏が西側もしくは東側に偏在する傾向が確認された。原因として、鶏舎内換気扇の配置等に問題があり換気が上手く行われていない可能性があることから、換気効率の改善のため換気扇の配置等について指導した。また、鶏舎への日当たりが周辺の竹林等により不均一であることやミストによる暑熱対策が十分に行われていないことがわかり、ストレス要因となる可能性が考えられたため、飼育環境改善やミストの適正使用について指示した。

青脚については、補鳥作業者の熟練度が影響する可能性があることがわかり、技能実習生への捕鳥指導等の徹底を指示した。

さらに、導入初期の死亡が多いとの聞き取り調査から、管理獣医師と鶏コクシジウム症ワクチン接種時期の見直しを検討した。

【結果】

指導前後に導入した雛の処理成績の比較で、育成率（95.4%→97.2%）と青脚率（1.54%→1.15%）が改善し、削瘦率（1.61%→2.66%）は悪化した。

生産効率は約0.5%向上したので、令和4年度入雛羽数で換算すると販売収入は約223千円増加すると推定され、処理場データを基に原因を究明し改善を行うことで、所得向上に寄与すると考えられた。

また、削瘦率が依然として高いことから、調査を引き続き行い原因を究明し、改善指導していく。